

「Fukushima アクシデントと森林・木材」

東京電力福島第1原子力発電所の事故から放出された放射性物質は、福島から北関東の山間部に広く拡散し、地域の森林、林業、木材関連産業に大きな影響を及ぼしている。事故から一年半が経過し、大学や研究機関により森林生態系や木材、林産物への影響の調査が進み、実態が把握されつつあり、同時に生活圏への除染等の対応が進められている。

一方、放射性セシウム137の半減期は30年と長いため、長期的な取り組みの検討が必要である。とくに森林は広大な面積を占め、その除染には莫大な経費がかかるので、生活圏の除染に比べて優先順位が低い。今後流域を含め長期的な対策が必要となる。本シンポジウムは緊急に求められる対策やその長期展望について最近の科学的知見をもとに、多角的な視点から議論する。

日時：平成24年11月7日（水）13:00～17:00

場所：日本学術会議講堂

主催：日本学術会議農学委員会林学分科会、森林・木材・環境アカデミー

共催：日本農学アカデミー、（社）日本森林学会、（社）日本木材学会、（財）林学会、他
講演

1. 福島件の森林放射性セシウム汚染の実態と長期モニタリング（仮）
高橋正通（森林総合研究所）
2. 森林および土壌の放射能汚染と移行の実態（仮）
恩田裕一（筑波大学教授、日本学術会議特任連携会員）
3. チェルノブイリに学ぶ長期生態系影響
吉田 聡（放射線医学総合研究所）
4. 木材への放射線セシウム移行と安全な木製品利用
外崎真理雄（森林総合研究所四国支所長）
5. 森林の除染と林業活動
森林総研・福島県、または林野庁技術開発室長
6. 今後の森林管理と林業の課題（仮）
丹下健（東京大学・日本学術会議連携会員）

パネル討論会

コーディネータ 川井秀一（京都大学、第2部会員）

注)

- ・講演者に予め、要旨をお願いする。
- ・「学術の動向」あるいは「森林の科学」に講演内容を寄稿する。